

子どもと本の出会いの場

— 国際子ども図書館の全面開館 —

佐藤 尚子



▲国際子ども図書館全景

はじめに

国立国会図書館国際子ども図書館が、今年五月五日に全面開館しました。

本誌の九八巻二号では、「子どもと本の豊かな出会いを願って」というタイトルで開設準備に携わった田中久徳が当館について書いておりますが、開館数ヶ月の様子なども含め、改めて紹介いたします。

経緯

国際子ども図書館の建物は、明治三九（一九〇六）年に帝国図書館として創建されたもので、昭和四（一九二九）年に増築されました。夏目漱石、石川啄木、吉屋信子らの文学者も通った「上野図書館」として親しまれてきましたが、平成十（一九九八）年、国立国会図書館支部上野図書館としての使命を終え、新たに「国際子ども図書館」として生まれ変わりました。

ルネサンス様式の代表的な明治期洋風建築として東京都の歴史的建造物に指定されているこの建物は、なるべく元の姿を保存するよう改修されることになり、先に改修の終わった昭和期増築部分（全体の約三分の一）を使って、二年前の平成十二（二〇〇〇）年五月から開館しました。

この二〇〇〇年は一九九九年八月の国会決議により「子ども読書年」と定められ、全国でさまざまな子どもの読書に関する活動が行われた年でした。また、翌二〇〇一年には「子どもの読書活動推進法」も制定され、国を挙げて子どもが本を読めるよい環境を作っていくという機運が盛り上がっています。

そして、明治期創建部分の改修も終了した今年五月、いよいよ全面開館の運びとなりました。

国際子ども図書館の蔵書

国立国会図書館は、国立国会図書館法に定める納本規

▼表1 国際子ども図書館所蔵資料（2002年5月現在）

種類・内訳			資料数	
児童書 （書を含む 学習参考）	図書	和図書	150,471冊	181,321冊
		洋図書	30,850冊	
	逐次 刊行物	和雑誌	797誌	817誌
		洋雑誌	20誌	
非図書資料	静止画・紙芝居		552点	
	カード・カルタ		48点	
	楽 譜		209冊	
	組合せ資料		236点	
	マイクロフィルム		36巻	
	マイクロフィッシュ		23,915枚	
	光ディスク		11枚	
児童書 資料 関連	図書	和図書	9,296冊	10,496冊
		洋図書	1,200冊	
	逐次 刊行物	和雑誌	660誌	734誌
		洋雑誌	59誌	
新聞		15紙		
児童サービス 資料 用	図書	絵本	1,703冊	6,254冊
		文学	1,588冊	
		知識の本	2,963冊	
	逐次 刊行物	雑誌	19誌	23誌
		新聞	4紙	

定により、国内で刊行された資料はすべて納本されることになっており、国内で刊行される児童書ももちろんこれに含まれています。全面開館時に、国際子ども図書館の書庫が完成し、これらの資料を永田町の国立国会図書館の書庫から移送して来ました。これに、収集した外国の児童書、児童書関連書（児童書についての参考図書、研究書等）を加え、現在の所蔵資料数は、約三十万点（表1参照）にのほります。この豊富な蔵書と歴史的にも価値のある建物を生かしてどのような活動を展開させていくかが当館の課題です。

基本的な役割

国際子ども図書館は、「おおむね一八歳以下の者が主たる利用者として想定される図書及びその他の図書館資料に関する図書館奉仕を国際的な連携の下に行う支部図書館として」（国立国会図書館法二二条一項）設置されたもので、

(1)子どもへのサービスの第一線にある国内外の図書館と連携・協力をはかり、かつその活動を支援し、子どもの本と出版文化に関する広範な調査・研究を支援するナショナルセンターとして機能すること。

(2)子どもに読書の楽しさを伝え、図書館や本の世界に親しむきっかけを与えることを目的とした各種のサービスを実施すること。

の二つの基本的役割を有しています。この二つの役割を実現させるために、次のような活動を行っています。

資料・情報センターとしてのサービス

資料の収集と書誌作成

前述の国立国会図書館法に基づき納本された国内刊行児童書のほか、未収の国内刊行児童書、児童書関連資料（児童書についての参考図書・研究書など）、海外の児童書、児童サービス用資料を収集しています。これらの資料を検索するためのデータベースとして、「児童書総

合目録」を作成し、ホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/>) から検索できるようになっています。

閲覧サービス

満一八歳以上の利用者のために第一・第二資料室を設けています。

第一資料室は、日本とアジア地域(約三〇カ国)の資料を約三万冊開架しています。納本資料(国内刊行児童書)の最新二、三年分の全点をこの部屋でご覧になれます。それ以前の児童書は、請求していただいで書庫から出納してきます。これに加えて児童書についての調査研究用資料、参考図書類、雑誌・新聞等を置いています。平成十五年度以降、学校教科書も提供する予定です。

第二資料室は、アジアを除く外国(欧米を中心とした約七〇カ国)の児童書・関連資料約二万冊を開架しています。パソコン等の電子資料閲覧用機器や拡大図書器も備えてあり、平成十三年に納本が開始されたCD-ROM

M等の電子資料のうち児童用のものがご覧になれます。また、いずれの資料室でも、資料請求により出納した書庫資料を閲覧でき、レファレンスや複写も申し込めます。

図書館へのサービス

国立国会図書館本館と同様、個人の方への貸出しはしておりませんが、公共図書館や大学図書館への図書館間貸出しは行っていますので、お住まいの近くの図書館に取り寄せて閲覧することもできます。

電子図書館

ホームページによる広報・案内機能に加えて、(1)書誌情報・専門情報及び電子化された一次情報を提供するデジタル・アーカイブと、(2)絵本などの画像を編集して提供するデジタル・ミュージアムの二つがあります。

(1) デジタル・アーカイブ

▼表2 児童書総合目録データ数

	図 書	逐次刊行物
国立国会図書館	17,025件 (洋図書401件含む)	1,760タイトル
国際子ども図書館	159,206件 (洋図書19,374件含む)	1,319タイトル
大阪国際児童文学館	13,805件	1,160タイトル
神奈川近代文学館	11,828件	698タイトル
三康図書館	5,379件	33タイトル
日本近代文学館	未収録	520タイトル
都立多摩図書館	113,320件 (洋図書13,344件含む)	845タイトル
計	320,563件	6,335タイトル

- ① 児童書総合目録 児童書というものは、つぎつぎに子どもの手にとって読まれるうちに、散逸してしまいがちな運命を持っていますが、散逸せず受けつがれた希少な児童書の所在情報の共有化を目的として、国内の主要な児童書の所蔵機関である五つの図書館の参加を得て、構築してきたのが児童書総合目録です。国立国会図書館本館も含めた全七館が所蔵する約三三万件の児童書・関連書がタイトル・著者、出版者等から検索できるようになっています。来館されて館内端末で検索できるのはもちろん、インターネットからの検索も可能です。(表2 参照)
- ② 児童書の一次画像の提供 また、今のところ館内閲覧のみですが、この児童書総合目録からは、昭和三十年以前発行の児童書のうち著作権の消滅したものと及び著作権者の許諾を得たものについての一次画像をご覧になることができます。(巖谷小波などが代表的なものです。)
- ③ 書誌リストの提供 このほか、各図書館等の選書業務

の参考に、資料室新着資料の書誌リストをホームページでご覧になれるようにしています。

また、日本国際児童図書評議会（JBBY）が行ってきた事業を引き継いで、「海外で翻訳出版された日本の子どもの本」に関する書誌情報をホームページを通じて提供していくことを予定しています。

(2) デジタル・ミュージアム

① 絵本ギャラリー 絵本というジャンルの誕生から現在までの流れをデジタル・コンテンツで紹介することを目的とし、内外の貴重な絵本の画像を当館で編集し、提供するもので、現在、次の二つのプログラムを館内やインターネットで提供しています。インターネット版は少し縮小した形になります。

「絵本は舞台——一九世紀英国の三人の作家によるお話と童話と詩の世界——」は、英国の古典的な三人の絵本作家を画像と音楽で紹介したプログラム。「コドモノクニ——一九二〇年代の日本 子どもたちを見つめた画家のまな

ざし——」は、大正期の絵本雑誌『コドモノクニ』で活躍した絵本画家の作品や童話、おはなしの紹介を通じて、その時代の芸術、思想、哲学との関係、時代の子どもの観などを明らかにすることを目的としたプログラムです。

② 世界の子どもの世界のことば 世界各国の言葉で書かれた絵本をインターネットにより提供しています。ユネスコ及びユネスコアジア文化センターの協力によって構築したもので、『ぼくの村わたしの家——アジアの農村』などの絵本を絵、音、文字の三つのデジタルデータで視聴できます。

「子どもと本の出会いの場」 としてのサービス

閲覧サービス

——全面開館後は一階に次の三室を設け、子どもたちへのサービスを行っています。

① 子どものへや 子どもを対象とする閲覧室で、国内外

の子どもの本約五千冊を開架し、子ども用の検索端末で本を探すこともできます。永く読み継がれた児童書や調べものに役立つ資料を中心に納本資料とは別に副本購入したものを、円形の書架の内側に絵本・読み物、外側に調べ物の本を配置してあります。(配置図・写真参照)

カウンター、あるいはフロアーには常時職員がいて、何か質問があるときは、気軽に聞いてもらえるよう努めています。希望するお子さんには、随時読み聞かせも行っていますが、一緒に来館したお父さんやお母さんに読んでもらっているお子さんのうれしそうな姿もよく見かけます。

書架の一角を使い、その時々テーマに応じた小展示も行っています。今年は、「おでかけしよう」、「あめ」、夏には各所で開催されていた「恐竜展」にちなみ「恐竜と化石」などを展示しました。また、そのとき開催されている展示会にちなむ小展示のコーナーも設けています。「不思議な国の仲間たち」の展示のときは、『ホビッ

トの冒険』、『エルマーのぼうけん』などの本を展示しました。

②世界を知るへや 世界の国々や地域の地理、歴史、民族を紹介する資料や海外の絵本など現在約八〇カ国の国について千冊ほどの資料を配置しています。国際平和のために、子どもたちに世界に興味を持ち異文化を理解してもらいたい、という願いから設けられた部屋です。

③おはなしのへや 毎週土曜日と日曜日の二時(四歳以下小学一年生を対象)と三時(小学二年生以上を対象)におはなし会を実施しています。声で語り、耳からきくことも大切にしていきたいと思えます。内容は、一般の公民図書館でおこなっているものと同様の絵本の読み聞かせやストーリーテリング(素ばなし)が中心のものです。

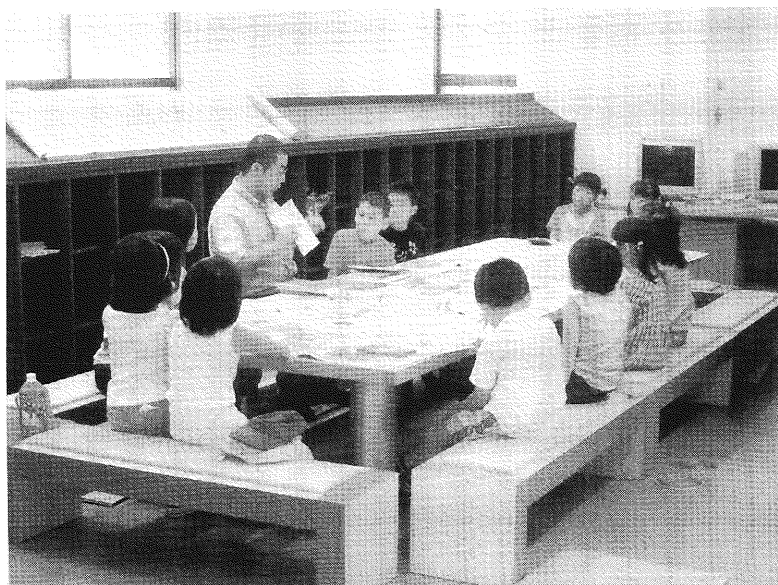
④メディアふれあいコーナー 三階のホールの一角にあるこのコーナーでは、前述の「絵本ギャラリー」や子どもたちが親しめるさまざまな電子出版物が利用できるパソコンを置いています。

見学

通常の閲覧以外に見学の方たちにもたくさん来ていただいています。図書館員・学校関係者の他、上野という場所から修学旅行や社会科見学で訪れてくれる子どもたちも多く、建物の見学だけでなく目的によって、調べ学習や、「司書の仕事とは？」という質問に答えたり、おはなし会を開催したりしています。「図書館って楽しくて役に立つところだよ」というメッセージを伝えていきたいらと思っています。

展示会・イベントの開催

国際子ども図書館では、展示を、子どもと本との出会いとふれあいの場として重視し、三階「本のミュージアム」において、一年を通してさまざまな展示会を開催しています。全面開館記念展示として、九月十四日まで「不思議の国の仲間たち―昔話から物語へ―」という展示を開催しました。この展示会は、民族を越えて共通す



▲イベント「みんなで絵巻を作ろう！」

る昔話に込められたものを見直し、この伝承の世界から生まれた不思議なものたちが児童文学のなかで生き生きと子どもたちの心に語りかけ、息づいていることを紹介したもので、約六万五千人の方々に見ていただくことができました。おばあさんが「この本はなつかしいねえ。

小さい頃読んだよ」と一緒に来館したお孫さんに語りかける風景も見られ、本を仲立ちとして子どもと大人の対話をもっともつと広がっていくことを望みたいと思います。九月二十八日からは、「子どもたちのまなざし—アポリジニの大地から—」という展示会を開催しました。

講演会やイベントも三階ホールを中心に開催しています。今年の夏の子ども向けイベントとしては、科学あそび「よわいかみつよいかたち—弱い紙も折り方によつて強くなる」 「風船の不思議—空気についてのいろいろな実験—」と「みんなで絵巻を作ろう!」を開催し、たくさんの子どもが参加してくれました。

長々とご紹介してきましたが、国際子ども図書館では、以上のような活動を行っています。二〇〇〇年の開館記念式典にお越しいただいた皇后陛下のお言葉にもありました「直接子どもに奉仕するとともに、『子どもに奉仕する人々に奉仕する』という、この図書館に課せられた二重の役割」を果たすために、全国のさらには世界の子どもたちのよりよい本との出会いを願って、子どもたちに奉仕する大人たち、図書館員、先生、親のみならずと手を携えて努めていきたいと思っておりますので、どうぞお力添えをお願いします。

(国立国会図書館国際子ども図書館)

*写真は国立国会図書館国際子ども図書館の提供です。